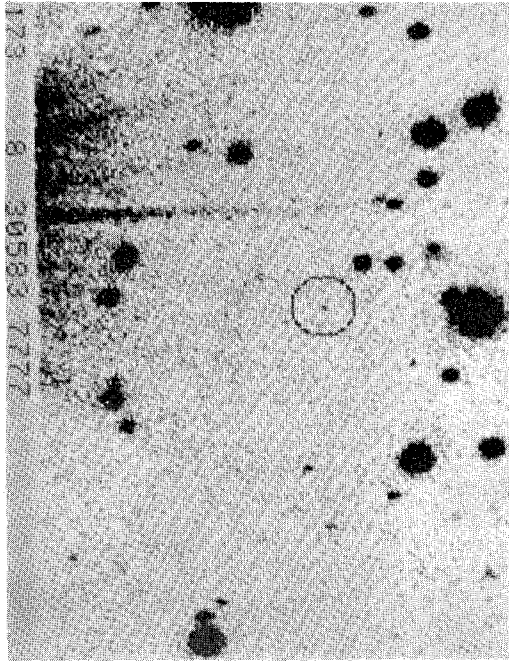


雑 報

ハレー彗星の回帰が検出された

IAU 天文電報中央局からの天文電報によると、ジェット推進研究所のジュウイットとダニエルソンは、パロマ天文台の 5 m 反射望遠鏡の直接焦点に CCD 受光器を装着して、次の位置にハレー彗星の像を検出し、確認した。



(UPI サン=共同)

U.T. α (1950.0) δ

1982 年 10 月 16.47569 日 $7^{\text{h}}11^{\text{m}}01^{\text{s}}.9+9^{\circ}33'03''$

光度は実視等級で 24.2 等, 近日点通過は 1986 年 2 月 9.3 日で, ヨーマンスが発表した予報位置と 8 秒角しか離れていない。また検出時の地心距離は 10.93 au, 日心距離は 11.04 au であった。写真は検出時のもので, ハレー彗星は円で囲まれた小さい像で, 画面左外にあるハレーシヨンを伴った明るい星は AGK 3+9°854 星 (8.2 mp, K0)=SAO 115101 星で赤経 $7^{\text{h}}11^{\text{m}}07^{\text{s}}.041$ 赤緯 $+9^{\circ}33'18''.53$ (1950.0) である。画面は左右 (東西) が約 1 分角に相当する。(上が北・左が東)

(香西洋樹)

新 刊 紹 介

Sky Catalogue 2000.0

—Volume 1: Stars to Magnitude 8.0—

A. Hirshfeld & R. W. Sinnott 編

(Sky Publishing Corporation & Cambridge University Press 発行, 1982 年, 604 頁)

1981 年に同出版より発行された “Sky Atlas 2000.0” の姉妹版で, 実視等級 8.05 より明かい 45,269 星の基礎データの集大成。コンピュータを利用して, 甚大なデータの整理・更新をして作りあげたもの。既存の星表のデータのなかには更新しなければならないものがあること, 座標の epoch が 2000.0 年になっていること等のため, 次第に便利に使われるであろう。

なお, 第 2 巻は, 銀河・星雲などの他に星団, 連星についてもくわしく扱う予定。(編集部: 平林 久)

1982 年 9 月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	10,	69	6	—,	—	11	—,	—	16	—,	—	21	9,	102	26	12,	52
2	13,	91	7	12,	75	12	—,	—	17	9,	119	22	7,	94	27	11,	97
3	14,	116	8	—,	—	13	7,	56	18	9,	112	23	—,	—	28	9,	146
4	14,	163	9	11,	87	14	10,	79	19	—,	—	24	—,	—	29	8,	145
5	17,	166	10	—,	—	15	—,	—	20	—,	—	25	—,	—	30	—,	—

(相対数月平均値: 152.0)

昭和 57 年 11 月 20 日	発 行 人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印 刷 所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 300 円	発 行 所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹 31 局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595